



Title	国際協力・SDGs 普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」のこれまでとこれから
Author(s)	佐野, 光平
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81420
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国際協力・SDGs 普及啓発事業

「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」のこれまでとこれから

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会

佐野光平

1. はじめに

「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図～（以下、ワンフェスユース）」は、2014 年に関西を中心とする NGO と学校教員のパートナーシップにより、グローバル課題を解決する若い世代の育成及びに、市民社会組織の理解者の育成を目指し発足した。事業を通じて、若い世代のエンパワーメントし、自ら問いを立て、考え、行動することのできる市民を育成するものである。2015 年 9 月に「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（持続可能な開発目標 SDGs）が国連において全会一致で採択されて以来、「貧困」、「紛争」、「差別」、「格差」、「ジェンダー」、「環境」の解決を掲げる高校生等若い世代に向けた学習や発表の機会が増えたが、2014 年当時こうした場は稀であり、ワンフェスユースは先駆けであった。

2. 7 年目の「第 3 期：変革期」を支えた「第 2 期：定着期」の功績

ワンフェスユースは 3 ヶ年をひとつの事業単位とし、2020 年度で 7 年目を迎えた。第 1 期（2014 年～2016 年）は、高等学校や大学の教員と関西の NGO が運営委員となり初動期を支えた。また、高校生の発意により、高校生がプログラムを企画し、実施するため「高校生実行委員会」が組織された。さらに、事業規模の拡大に伴い当日運営のコーディネーションを行う「高校生ボランティアリーダー」が組織された。

第 2 期（2017 年～2019 年）は、林田雅至運営委員長のもと、関西圏の高等学校でワンフェスユースの知名度は向上し、2018 年以降は、ワンフェスユース参加者の延べ人数は 6,000 名となった。第 2 期は、事業規模を拡大し、関西地域での知名度を確立した「定着期」といえる。また、ワンフェスユース高校生実行委員会への応募は、教員の推薦に留まらず、高校生個人の応募が多数見受けられるようになった。さらに、事業規模の拡大と知名度の向上に

よりプログラム出展に意欲的な NGO や企業の数が増えたことも特徴である。

加えて、ワンフェスユース卒業生で組織されるワンフェスユース OV (Old Volunteer) 会が発足した。ワンフェスユースの地域定着と継続開催により学校教員と NGO に加え、企業やワンフェスユース OV 会が運営委員会に次々とオブザーバーとして参加した。第 2 期にはワンフェスユース OV 会が「高校生ボランティアリーダー」をサポートする体制ができた。

第 1 期、第 2 期までの 6 ヶ年を通して、継続的に関わる運営委員やワンフェスユース OV 会がノウハウを蓄積し、ワンフェスユース事業の実施体制が安定した。当時の運営委員長をはじめとする委員の寛容な判断によって、第 2 期の後半より、運営委員会にユース世代や多様なアクターを積極的に受け入れ、だれもが年齢や職業に関係なく意見を出し協議する民主的な運営体制となった。一見、非効率に思われる協議体ではあるが、寛容と多様性が尊重された運営体制は、結果として、基盤強化につながり新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「第 3 期：変革期」の最初の年の大きな原動力となった。

3. オンライン化の試行的実践からユース世代のプレゼンスの向上に期待する

当初、ワンフェスユースの第 3 期(2020 年より 3 ヶ年)は「発展期」と位置づけ、新たな事業展開を考えはじめていた。しかし、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大によりオンライン開催を試みるという「変革期」となった。ワンフェスユースのオンライン開催が実現した理由は次の 3 つある。

1 つ目は、第 2 期に、林田運営委員長のもと多様な構成員による協議会として意思決定がなされていたことである。ワンフェスユースに賛同するユース世代や、企業に所属する委員が参加し、柔軟な発想をもってオンライン開催への提案を行い、従来のワンフェスユースに新たな価値を提供した。多様な関係者で構成される運営委員会は、それぞれの世代のアイデア、それぞれの専門性が掛け合わされ、クリエイティブな活動を可能にしたのではないだろうか。

2 つ目は、これまでワンフェスユースに継続して運営委員として関わっていただいた教員の尽力にある。蓄積されたノウハウを駆使し、教員という立場から、各分科会で自主的な運営が行われた。

教員による分科会運営が機能したのは、オンライン化により物理的な距離を気にすることなく、また、時間的な障壁を乗り越えることができたことにある。今後より一層、学校間が連携する横断型プログラムの実施が増えるものと考えられる。

最後に、高校生実行委員会をはじめとする若い世代が、探求心や好奇心を持ち、オンライン化を成功に導いたと考える。オンライン化に際しては、類似事例を収集し、都度、失敗や成功を重ねながら独自の条件に合った最適な方法を見出す必要があった。高校生実行委員たちは柔軟な発想を持ち、試行錯誤を続けた。変化や失敗を恐れずに、試すことそのものを楽しむ姿勢にユースの持つ潜在的な能力を垣間見た。今回のオンライン化の試行的な実践から、ユース世代が社会変革、SDGs 達成のための重要なアクターであることを感じ、日本社会においても、ユースのプレゼンスがさらに認識されることを期待する。

4. ユースアクションプラットフォームの可能性と展望

2020 年度は、感染症拡大という影響下のもと、否応なしにオンライン化を余儀なくされたが、結果的には新たな可能性を見出す機会になった。例えば、北海道から沖縄県まで離島、海外を含む、地域独自の特色や課題を持つ市民との連携や国境を越えた地球上の若い世代の市民社会との繋がりである。これまでに実施してきた「高校生のためのポスターセッション」や「高校生のための国際協力助成プログラム」では、北海道から沖縄、離島、そして、海外からの参加も視野に入れながら、グローバルな展開が期待できるのではないかと。

また、今年度は新たに提言専門チームである「ユース提言セクション」を発足し、若い世代による SDGs ユースアジェンダの策定を行った。例えば、関西発の取り組みである市民によるローカルアジェンダを、海外の市民やユースたちと取り組むことで、それぞれの国や地域で大切にしている独自の価値観や規範に触れ、国境を超えて市民同士が対等に学びあい、協力し合う国際協力を実現することができるだろう。

現在、志半ばだが、引き続き、ユースによる普及啓発活動や提言活動、研究発表の機会を提供し、課題解決の方法としての SDG17「パートナーシップで目標を達成しよう！」を推進したい。NGO は、主に課題解決型の事業や運動を展開するが、ワンフェスユースにおいては、価値創造型の事業として若い世代とその応援者や NGO を有機的に結びつけ、ユースアクションプラットフォームとしてユースによる運動体をつくることができる。

5. さいごに

大阪大学 CO デザインセンター教授の林田雅至教授には、ワンフェスユース発足当初より市民社会組織、教育関係者、そして高校生を繋ぐ役割を担っていただき、ワンフェスユース事業に多大なるお力添えをいただいた。

特に、第2期(2017～2019)の3ヶ年は、運営委員長にご就任いただき、継続開催、事業規模の拡大を実現し、関西地域での「ワンフェスユース」という取り組みを定着させていただいた。また、新型コロナウイルス感染症の影響下で変革期を迎えた第3期は、若い世代がより運営を主体的に行うための移行期でもあったが、ユースに対する助言やサポートをいただき、無事に、ワンフェスユースを開催することができた。

現在、ワンフェスユースは、オンライン化により今後繋がるべき対象や強化すべきプログラムの選択肢が増えている。こうして、数ある選択肢から事業を構想することができるのは、ひとえに、初動期から御協力いただき、礎を築いた方々のご尽力と、ワンフェスユースに賛同し、継続して支えてくださった方々がいてこそである。

引き続き、ユースを含む多くの市民にとって価値のあるワンフェスユースをつくっていきたいと考え、改めて、その導線を引いていただいた林田雅至教授に心より感謝申し上げたい。

《参考資料》

- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online 事業実施報告
- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online レポート
- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth ～発足と活動について～
- [ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ](#)

《筆者略歴》

佐野光平 —— 2019年より関西拠点のネットワークNGOである特定非営利活動法人関西NGO協議会で国際協力・SDGs普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図～」を担当。

事業実施報告

高校生による

ONE WORLD
FESTIVAL
for Youth
2020 online

わたしたちが描く
持続可能な社会の未来図

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online
～私たちが描く持続可能な社会の未来図～

開催日：2020. 12. 20

事業の目的

- 1) 将来、世界的な視野を持ち、地球市民として社会課題の解決に向けて行動する次世代の育成
- 2) SDGs 達成の重要なアクターであるユース世代と国際協力分野のネットワークの強化、連携の促進

今まで以上に質の高い国際協力活動を展開していくために、本事業を通じ、高校生という早い時期から世界的な視野で社会課題を分析する力を育て、本分野への理解と参加を促します。また、若い世代を中心とした意見交換・情報交換・発表の機会をつくり、国際協力や SDGs の推進に関わる様々なセクター（NGO/NPO などの市民セクター、国際機関、行政や地方自治体、企業、そして高校や大学をはじめとする教育機関など）とつながる場を通じて若い世代のエンパワーメントにつなげます。

事業の背景

2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）を達成するために、ユースはとても重要な存在です。ワンフェスユースは、ユースが主体となって、貧困、紛争、差別、格差、ジェンダー、環境などの社会課題を自分たちの問題としてとらえ、どうしたら解決することができるのか、同世代とともに考え行動に移すための場です。2030 年までの国際社会共通の目標である SDGs、この目標を達成するために、ユースがあらゆる世代、セクターの人達と一緒に一歩を踏み出します。

グローバル化が進み、相互依存が深まる今日、2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大により、世界中の人々が共通の体験をしました。長い歴史の中で、全員が当事者となり世界との

繋がりをこれほど意識したことはなかったでしょう。2020 年のワンフェスユースは、こうした状況だからこそ、日本を含む、世界中の同世代とつながり、国際協力や SDGs について考え、アクションにつなげていくための場として、オンライン開催しました。パンデミック以後に持続可能な社会を実現する人材の育成が急務です。自ら問いを立て、行動し、課題を解決する場各高校や各セクターの横断的なネットワークをつくりまします。そして、学習や知識修得のみではなく、国際協力分野に携わる多様なセクター（外務省、JICA、企業、教育機関、NGO）とユース世代をつなげ、互いの強みを持ち寄り、新たな価値を創造します。ワンフェスユースは、課題解決型のアクションプラットフォームとして活動します。

事業の成果

本年度は、延べ 1,200 名が参加（各プログラム参加者総数）、高校生など約 180 名のボランティアが運営を支えました。本年度は 38 の中学校・高等学校がプログラムに参加しました。オンライン化に伴い、プログラム総数を減らしましたが、1つ1つの取り組みの質を高め、大阪・関西だけではなく首都圏や地方都市、離島、海外の新規関心層を開拓しました。イベントを通じて、参加した高校生たちは NGO 職員や企業の SDGs 担当者とも積極的に交流し、同世代の高校生たちの発表や取り組みに刺激を受けました。本事業を通して、ユースたちが描くビジョンや未来図を示すことで、国際協力や SDGs を推進する重要なアクターとなりました。ワンフェスユース高校生実行委員のふりかえりでは、自らの成長だけでなくユースがアクションを起こすことの社会的な意義や効果についても話し合われました。

ワンフェスユース参加者累計（～2020 年度）

延べ **3 万 1200 名**以上

また、ワンフェスユース卒業生で構成されるワンフェスユース OV 会によるサポート体制が強化されました。当初からの事業目標である“社会課題の解決や国際協力に関心を持つ層の裾野拡大、人材育成”の成果は、こうしたユースによるサポート制度の拡充からも見出すことができました。

本事業の真価は、高校生実行委員会が、①企画、②立案、③調整、④実施、⑤ふりかえりの全てのプロセスに携わることにあります。そこに、国際協力 NGO の専門性が合わさることで相乗効果が生まれます。ユースたちが斬新な感性を持ち、国際協力 NGO や企業など多様なアクターと協働することで、SDGs 達成に向けた新たな価値を創造し、自らの社会的な存在意義を高めています。

高校生実行委員・ユース提言委員に参加し、
企画運営に深く関わった高校生の人数（～2020 年度）

延べ **156 名**



開催概要

名 称	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online
サブタイトル	～私たちが描く持続可能な社会の未来図～
開 催 日	2020 年 12 月 20 日 日曜日 (10:00～16:00)
開催場所	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ内特設会場 (https://owf-youth.com/2020/index.html)
主催	・ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会 ・特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会
協力	・大阪大学 CO デザインセンター ・公益財団法人 大阪 YMCA ・一般社団法人 ソーシャルギルド ・NEC ネットエスアイ株式会社 ・ワンフェスユース OV 会 ・ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会 & ユース提言セクション
後 援	外務省、文部科学省、(独)国際協力機構 関西センター(JICA 関西)、大阪府教育委員会、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、(公財)大阪府国際交流財団、(特活)開発教育協会(DEAR)、朝日新聞社、関西 SDGs プラットフォーム
協賛	ジブラルタ生命保険(株)、(宗)真如苑、リワークス(株) 日本労働組合総連合会大阪府連合会(連合大阪)、近畿労働金庫
補助金・助成金	・外務省 NGO 事業補助金事業 ・(公財)カメイ社会教育振興財団(仙台市) ・(独)環境再生保全機構(※ユース提言セクション) ・日蓮宗あんのん基金助成事業 ・近畿ろうきん・社会貢献預金(笑顔プラス)寄付金
当日参加者	延べ 1,200 名(各プログラム参加者総数)
当日ボランティア	約 180 名(オンライン運営ボランティア、高校生レポーター、警備ボランティアを含む)
プログラム数	12 プログラム
参加団体数	中学校・高等学校・高校生団体 38 校、NGO20 団体 企業・大学・国際機関ほか 19 社・団体
運営事務局	特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30 4 階 TEL 06-6377-5144 FAX06-6377-5148 MAIL youth_expo@kansaingo.net URL http://owf-youth.com



高校生実行委員会

本年度は、関西地域の高等学校より計 15 名が集まり、企画立案の要である「プログラム実施セクション」と企画運営の要である「イベント運営セクション」の部門に分かれ活動しました。

8 月から会議を重ね、プログラムの当日企画の全体コンセプトの設計・企画立案及び実施ならびに、オンライン化に伴う特設 WEB 会場の構築計画、オンラインボランティアの受入、計画的な広報活動、当日の運営を連携して行いました。また、イベント後のふりかえり会を実施することで取り組みの総括を行いました。

企画テーマの設定、講師の選定、講師への企画提案及び趣旨説明、以後の打ち合わせも高校生たちが中心に進めました。協働企画に高校生が主体的に関わることで、国際協力分野の専門性の高い内容でも、同世代が参加・理解しやすい工夫しています。また、オンライン化に伴いデジタルネイティブ世代の ICT 活用の潜在力・発想や構想、そしてスキルがより一層輝きました。さらに、NGO 職員や教員、企業の関係者が専門性を持ち寄る協働作業が様々な相乗効果をもたらします。活動を通して、高校生が気づきを得て、社会とのネットワークを築きました。



プログラム実施セクション

8 月より企画コンセプトを考え、プログラム実施セクション委員が「持続可能な社会の未来図」を描くためのプログラムの①企画、②立案、③調整、④実施、⑤ふりかえりの一連の流れを担当しました。

世界の現状を伝え、次のアクションにつなげるための工夫を凝らし、同世代の視点を大切に行動を促すプログラムを作り上げました。

開会式 | キーノートセッション

～2030 年 SDGs達成に向けた 1 日のナビゲーション～

オンライン Zoom 会場 <10:00-10:35>

【参加人数】192 名

【講師】野田沙良さん((認活)アクセス)

【協力】各国のユースビデオレター (海外在住のユース)

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション



私たちに何ができるのか

～コロナを超えて、明るい明日へ～

オンライン Zoom 会場 <10:50-12:20>

【参加人数】94 名

【スピーカー】アジアユースサミット、CODE 未来基金、ワンフェスユース

【ファシリテーター】吉椿雅道さん((特活) CODE 海外災害援助市民センター)

【共催】近畿労働金庫、関西 NGO 協議会

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション



みんなで彩る、6 色の虹

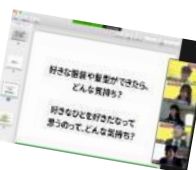
オンライン Zoom 会場 <10:50-12:00>

【参加人数】74 名

【協力・講師】吉川ヒロさん ((株)アカルク)

【ファシリテーター】高校生オンライン運営ボランティア

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション



地球温暖化は止められるのか？

～今後人類に求められること～

オンライン Zoom 会場 <13:00-14:10>

【参加人数】76 名

【企画】高校生実行委員会

【講師】伊与田昌慶さん((認活)気候ネットワーク)



閉会式 | ラップアップセッション

～ふりかえり、一步を踏み出す、ユースアクション～

オンライン Zoom 会場 <14:40-15:40>

【参加人数】169 名

【協力】高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

【企画】高校生実行委員会



ポスターセッション表彰式

【登壇発表】Impact Citizens for SDGs

(大阪市立水都国際高等学校)

ユース提言発表

【登壇発表】ユース提言セッション



イベント運営セクション

2020 年度より高校生ボランティアリーダーを「高校生実行委員会イベント運営セクション」に改組しました。

8 月より招集し、オンライン特設会場のデザインを考え、プログラム参加者が円滑且つ安全に参加できる特設会場のアイデアを盛り込みました。WEB 制作企業やプログラム実施セクションとともに打ち合わせを重ね、11 月には特設会場をオープンしました。

新型コロナウイルス感染症拡大により、従来のように、当日対面でのボランティアコーディネーションができないため、プレイベントを企画し、ワンフェスユースの開催趣旨や運営ボランティアの参加意義についての説明会を事前に行いました。

オンラインだからこそできることを考え、新しい運営ボランティアコーディネーションのあり方を模索しました。



ユース提言セクション(提言専門チーム)

本年度より、ユース提言セクションを発足し、関西地域の高等学校より計 8 名が集まりました。

9 月からミーティングを重ね、ユースとして同じユース世代に対しての貧困と差別に関する提言シンポジウムを開催しました。高校生たちはアジェンダの策定を通じて、ユース世代の社会参画の重要性に気付き、提言活動による社会変革に挑戦しました。提言書をまとめるためには、隠れてしまい、聞こえていない声を聞こえる化するための丁寧な対話や調査が必要です。弱い立場に置かれている方々へ寄り添う気持ちを大切にしながら、提言書をまとめあげました。



ワンフェスユース OV 会

これまでに、ワンフェスユースで高校生実行委員会やボランティアリーダーを経験したことのあるメンバーが、OV (Old Volunteer) としてワンフェスユース OV 会を組織し、2019 年度には高校生ボランティアリーダーのサポートを行いました。

本年度はさらに体制を拡充し、ワンフェスユース運営委員会へユース委員として参画しました。ユース世代の感性や発想がオンライン化の原動力となりました。また、高校生実行委員プログラム実施セクションとイベント運営セクションの募集や選考やミーティングの運営を力強くサポートしました。過去の経験を活かし、現役の高校生実行委員の主体的な活動をサポートすることで、ワンフェスユース OV 会メンバーもまた、同じユース世代に勇気づけられます。このように循環する学び合い、育て合えるサポート制度が整うことでユース同士が、新しい視点やノウハウを獲得しました。



年間の動き

プログラム実施セクション

2020 年度高校生実行委員の招集
7 月募集開始、選考、決定
8 月 30 日第 1 回実行委員会
【合同ガイダンス、チームビルディング、
各セクションのミッションの確認】

9 月 13 日 第 2 回プログラム実施セクション
【全体プログラム設計、開会式／閉会式担当
の決定、イベント運営セクションとのプログラムコ
ンセプトの確認合わせ】
27 日第 3 回プログラム実施セクション
【講師依頼企画の提案、依頼調整の開始】

10 月 11 日 第 3 回プログラム実施セクション
【企画講師との企画調整（Zoom）、クラウド
ファンディング実施計画、広報計画の決定】
10 月 11 日～10 月 31 日（随時）
企画講師との依頼調整、企画広報の開始、クラ
ウドファンディングの実施準備

7～8 月

9 月

10 月

ユース提言セクション

9 月 13 日課題の選択、提案

10 月 4 日チーム分け、調査開始
25 日調査活動の共有／協議

イベント運営セクション

9 月 6 日 第 2 回イベント運営セクション
【全体コンセプトの確認、オンライン特設会場
の提案及び設計案】
13 日第 3 回イベント運営セクション
【オンライン特設会場の設計、プログラム実施
セクションとのプログラムコンセプトの確認】

10 月 4 日 第 4 回イベント運営セクション
【オンライン特設会場制作会社への提案の確定】
8 日 WEB 制作会社との打ち合わせ調整、見積相談
18 日第 5 回イベント運営セクション
【WEB 制作会社との最終調整、当日ボランティア募集
計画、企画広報の開始、クラウドファンディングの準備】

高校生実行委員からのメッセージ

今年度のワンフェスユースは新型コロナウイルス感染
症拡大防止のため、全日オンラインで開催されました。
高校生実行委員会ではこれまで同様に学びを共有するこ
とができるのか、私たちが社会や世界に向けて発信した
いことがしっかり伝わるのか模索し続けました。

新たな取り組みは、大きな不安と未知なる挑戦への期
待感でいっぱいでしたが、当日は驚くほど連帯のとれた
ワンフェスユースを開催することができたと思います。

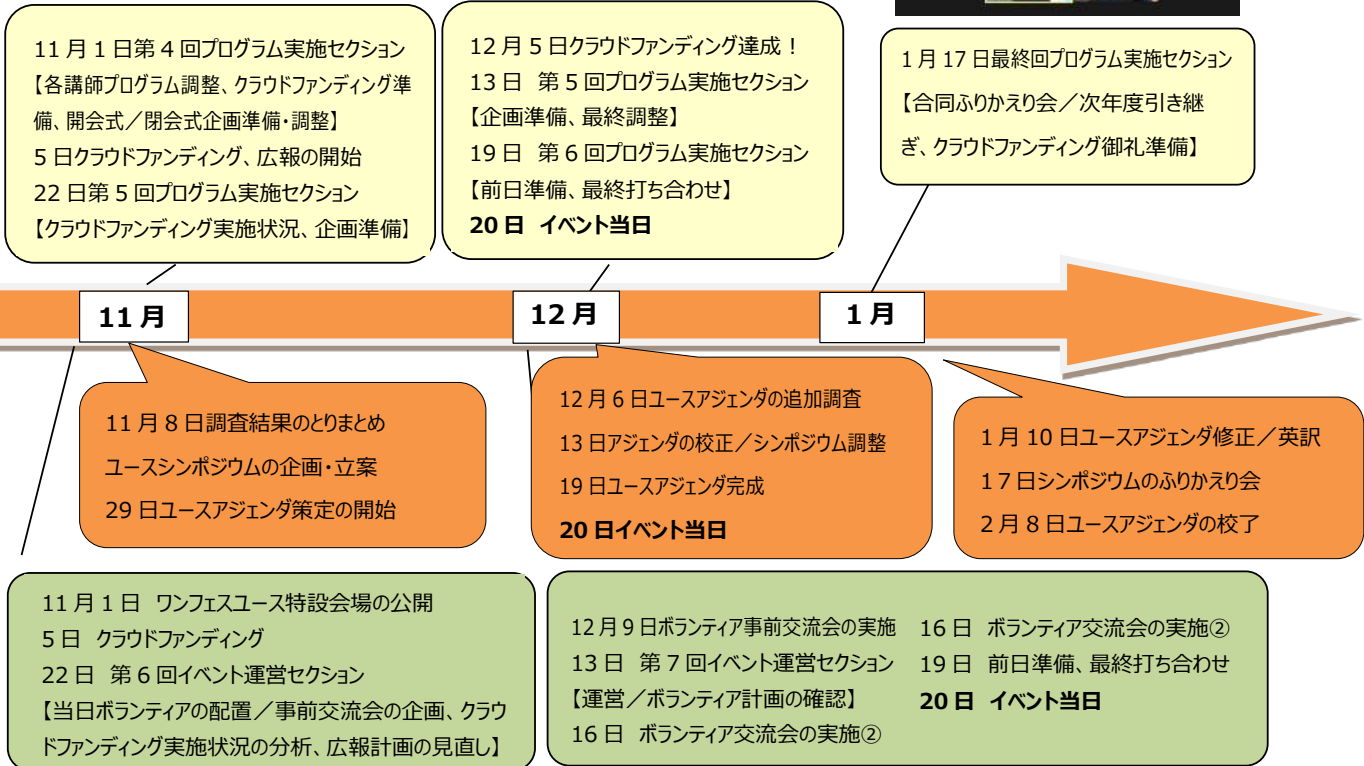
このイベントが成功したのは活動を支えてくださった
皆様や様々な形で協力してくださった方々のおかげだ
と思います。このイベントを通して学んだことを忘れず、
これからもたくさんの方にチャレンジしていきたいと
思います。本当にありがとうございました。

プログラム実施セクション
メインフォーカル 武村 桃子

昨年の 12 月に無事ワンフェスユース 2020
Online が終了しました！

私たちイベント運営セクションは初めてのオン
ライン開催に伴い、ホームページの Web デザイン
や Twitter や Instagram での SNS 広報、当日ボラ
ンティアの事前交流会を行いました。このコロナ
禍だからこそ、たくさんの方々とオンラインで集
まり、痛みを分かち合い、学び合うことが出来た
ことに意義を感じています。今回のワンフェスユ
ースで得た経験を活かして今後も「今自分にでき
ること」に取り組んでいきたいと思っています。

イベント運営セクション
共同代表 大崎蒼依



ユース提言セッション

ユース提言セッションでの活動を通して、自ら学ぼうとする
ことの大切さを知ることが出来たと同時に、今の自分だからこ
そ伝えられるメッセージがあることを学びました。このような
機会を作りサポートして下さった方々、応援してくださった
方々、ありがとうございました。初心を忘れず、これからも今
回学んだ積極的な姿勢で、様々なアクションを起こしていきま
す。 ユース提言セッション共同代表 管礼実

ユース提言の取り組みを通して国際問題に関する自分
の知識が増えただけでなく、どのようにしたら自分たち
の届けたいメッセージがうまく伝わるかを考え、工夫で
きるようになりました。この経験を自分の原動力にして
絶えず、たくさんアクションを起こしていきます。私たち
の活動をサポートして下さった方々本当にありが
うございました。

ユース提言セッション共同代表 樋口真由

ワンフェスユース OV 会

今年はオンライン開催ということで、誰もが初め
てのことに取り組みました。ワンフェスユース OV
会も高校生のサポート役として、会議に積極的に参
加し、高校生と交流を図りました。オンライン会議
で当日まで一度も会ったことがありませんでした
が、オンラインだからこそできることを提案し合
い、そして世界のユースとつながることもできたと思
います。各セッションのサポーター同士も連携を
とりながら、イベントをより良くするために話し合
うことで、さらに信頼関係を得ることができたと感
じます。これからもワンフェスユースを通して多く
のひとと繋がれるように、自分も成長できて、周り
にも影響を与えられるように取り組んでいきます。

ワンフェスユース OV 会 横田 藍子



高校生のための国際協力助成プログラム

高校生の国際協力活動を支援する取り組み「国際協力助成プログラム」は 2019 年度に採択された高校生チームが成果報告及び会計報告を実施致しました。東アジア青少年歴史体験キャンプ「NEXT SEOUL 2020」、ノートルダム女学院高等学校「Mirai ミール」のみなさんが新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、試行錯誤を繰り返しながらの活動を実施しました。フードロスやジェンダー問題の解決にチャレンジするユースの発表に、参加した高校生や講師からも多くのフィードバックが寄せられました。

高校生のための国際協力助成プログラム成果報告会

会場：オンライン Zoom <10:50-12:00>

【プログラム協賛】リタワークス株式会社

【参加人数】：54 名

【成果報告チーム】★「フードロス・セールス」Mirai ミール
(ノートルダム女学院高等学校)

伊藤 穂乃佳、安藤 沙梨、上田 茜、関 香菜子

★「元慰安婦女性と出会う変える未来」

東アジア青少年歴史体験キャンプ NEXT SEOUL 2020

寺島 美羽

【成果報告ワークショップ】

「慰安婦とは？日本のジェンダー問題とは？」

ファシリテーター：寺島美羽、佐々木恵、小島あずみ



高校生のためのポスターセッション

高校生たちが、国際協力や SDG s など、日頃の授業や課外活動で行ってきた取り組みの成果や、地球規模の課題に対する解決策などを発表しました。多数の応募チームの中から一次審査で選出されたファイナリスト 11 チームが、NGO 職員とのブラッシュアップ交流会を経て、当日はさらに磨き上げられた発表をオンラインで行いました。当日審査は、分析力、実現可能性、独創性などの審査基準に基づき、NGO 職員との質疑応答も交えて行われました。このプログラムを通して、国際問題に興味を持っている高校生同時志が新たな課題や気づきを得て学び合い、その実現可能性の高さから実際に実現されたプロジェクトも生まれています。

高校生のためのオンラインポスターセッション審査会

会場：オンライン Zoom <10:40-12:35>

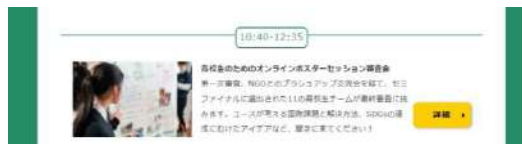
【参加人数】：88 名 【応募総数】47 チーム【ファイナリスト】

(学校名・チーム名・発表タイトル) <優秀賞受賞チーム> (五十音順)

大阪市立水都国際高等学校 :Impact Citizens for SDGs「未来のために今日できること」／神戸市立葺合高等学校:RAINBOW「LGBT education now and in the future」／兵庫県立網干高等学校:トマメロン「私たちの住む農業の未来とそのために必要なこと」

<ファイナリスト> (順不同)

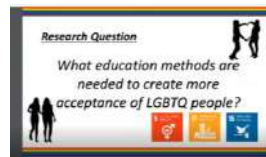
立命館宇治高等学校:ムーン「#災害に強いまちづくり」／立命館宇治高等学校 :R・U・G・ABPP「～タバコは吸う人にしか有害じゃないの？～」／クラーク記念国際高等学校:クラーク記念国際高等学校 AO 2「Foreign Residents in Japan Facing Discrimination: Support Efforts During the Pandemic」／兵庫県立高砂南高等学校 :海の生き物護り隊！「海の生き物を護るために私たちができること。」／立命館宇治高等学校:Support and Relief for Child Soldiers「子ども兵士の救済と社会復帰」／兵庫県立高砂南高等学校 :Filter「森林伐採を減らそう」／立命館宇治高等学校 :J & K「日韓経済問題解決案」／兵庫県立網干高等学校:なかにーず「理想の網干にするために私たちができること」



プレイベント | オンラインポスターセッションブラッシュアップ交流会

第 1 次審査通過チームに対して、当日審査会に向けた更なるブラッシュアップを目的としたオンラインによるブラッシュアップ交流会を 11 月 14 日に実施しました。本プレイベントは①初のオンライン

開催のため、オンラインプレゼンテーションに慣れること、②1 か月後の当日審査会に向けて国際協力 NGO のスタッフや企業 CSR 関係者が、コメンテーターとして現場や実務的な知見から実現可能性やプレゼンテーション技法についてアドバイスしながら、実際の実務者と交流することを目的としました。これにより、第 1 次審査から取り組みに磨きをかけ、取り組みの質や得点を飛躍的に伸ばしたチームが多くありました。





動画配信活動紹介ブース出展

国際協力や SDG s 推進に関連する活動を行う高校・NGO・大学・企業・団体が動画配信活動紹介ブース出展を行いました。高校生によるブースでは、同じ世代へ向けて日頃の活動を紹介する場として活用されました。また、NGO や公益団体、企業のブースでは、2030 年 SDG s 達成に向けた具体的な宣言や情熱を持ち取り組む国際協力活動や社会課題に関する普及啓発を行い、一緒に達成する重要なアクターであるユース世代に向けて応援メッセージを送りました。

動画配信活動紹介ブース出展

ワンフェスユース公式オンライン特設会場 <10:00-16:00>

【2020 年 12 月 1 日～2021 年 3 月 31 日】

【視聴人数】延べ 1,353 人【参加団体数】21 団体

【高校・高校生団体】

Pla_earth、Earth Guardians Japan、

桃山学院高校スクール・バイ・スクール（SBS）、Greenpeace、OLIVE

【NGO・NPO / 学生団体】

（認活）アクセス共生社会をめざす地球市民の会、（特活）CODE 海外災害援助市民センター、

（公財）PHD 協会、（公社）アジア協会アジア友の会、（認活）テラ・ルネッサンス、

（認活）国際地雷処理・地域復興支援の会、（認活）FutureCode、

（認活）緑の地球ネットワーク、（一財）日本国際飢餓対策機構、

（認活）フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、（公財）大阪 YMCA、（公社）日本国際民間協力会、

ウータン・森と生活を考える会

【企業・機関・その他】

（独）JICA 関西、ソーシャルアクションカンパニー（株）



ユースアクション報告会

高校生が日頃の研究成果、実際に体験した途上国でのフィールドワークやスタディツアーについて報告を行いました。本報告会では学校間連携が促進されることにより、高校生同士がディスカッションや質疑応答を行い、切磋琢磨する報告会の場となりました。さらには、社会課題や国際理解教育に熱心な教員同士がネットワークを構築し、継続的に交流を深め学校間連携が促進されました。オンライン化に伴いスタディツアー受け入れ団体の海外駐在員も参加するなど新たな展開を見込める取り組みとなりました。

ユースアクション報告会

Zoom会場 <13:00-14:10>【参加人数】54 名【参加校数】4 校

○兵庫県立兵庫高等学校「ポストコロナ社会を創造しよう」：前田明日美、藤代ほのか

○大阪府立佐野高等学校「僕が見たカンボジア」：大賀幹太

○立命館宇治高校「立宇治高×韓国水原高国際交流始動！」

：藤本亜希、権萌々絵

○神戸龍谷高等学校「学食で飢餓の子どもを救える?!」

横山天音、西原美空、杉本美穂、藤川萌里

ユネスコ協会 SDG s パスポート体験発表会

Zoom 会場 <10:40-13:20>【参加人数】19 名

コロナ禍での行動変容や行事変更を受け、各校で試行錯誤し困難を乗り越えました！

体験発表会での交流を通じて、コロナ禍だからこそできることについて話し合いました。

【参加校】

追手門学院高等学校、大阪府立春日丘高等学校、大阪府立佐野高等学校、

大阪府立北摂つばと高等学校、コリア国際学園高等部





国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会

2020年12月6日(日)にユース向けのプログラムを実施する国際協力スタッフと学校教員のネットワークセッションを実施しました。

国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会

12月6日 <10:00-12:00>【参加人数】39名

オンライン化に伴い、関西地域以外にも関心を寄せていただく方々との相互理解・交流を促進することを目的に、プレイベント「国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会」を実施しました。関西の NGO のユース向けプログラムについて紹介と交流の機会を設けることで、国際理解教育やSDGsの探求学習を実施している学校関係者にワンフェスユースオンラインとの親和性を知らせていただき、新たな参加を促すネットワークの構築・広報活動を行いました。本交流会では、関西圏や首都圏はもとより地方都市や離島の高校の先生からも申込参加があり、その後、広報協力いただきました。また、NGO 同士がプログラムに相互理解をすることで、活動の役割分担を再認識する機会となり切磋琢磨をする繋がりもできました。オンライン化に伴い、地域や国境を超えてプログラムを提供できるため、これまで届かなかった地域にもワンフェスユースを広く周知し、国際協力 NGO とのネットワークを形成しました。

学校教員とNGOの関係性を深める
事前イベントを開催！

10:00-12:00

国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会
参加費 無料
定員 39名

参加方法



ご支援・ご協力くださった皆さま（敬称略・順不同）

<ご協賛企業のみなさま> リタワークス株式会社、真如苑、ジブラルタ生命保険株式会社、

日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）、近畿労働金庫

・外務省 NGO 事業補助金事業 ・公益財団法人カメイ社会教育振興財団(仙台市)

・独立行政法人環境再生保全機構（※ユース提言セクション）

・日蓮宗あんのん基金助成事業 ・近畿ろうきん・社会貢献預金（笑顔プラス）寄付金

<当日会場警備のご協力> ジブラルタ生命保険株式会社 社員ボランティア

<クラウドファンディングへご支援いただいたみなさま>

【支援者数】60名 【支援総額】312,000円（掲載を許可いただいた方のお名前のみ掲載しております）

高橋美和子、高橋佳子、齊藤美美、青木亮太、青山織衣、田中ふみ子 & 英司、田中佑樹、山本佳史、富島健司、林田雅至、山岸周平、熊亮太郎、樋口電気株式会社 樋口一生、中嶋一博、高島信子、高居柊平、金福和、有限会社ガイアコミュニティ 風かおる、杉浦真理、古賀印刷株式会社 古賀博、吉椿雅道、ヨシカワヒロ、村井昂輝、横田明子、乾昌志、田中めぐみ、仲井友佳子、谷川詩織、香田秀文、武村康彦、酒井淳平、細原次世、鈴木千花、安里佳世子、ひがしなり SDGs アンバサダー認証協議会 山本哲史、横田藍子、瀨上達也、田尻忠邦、河上幸子、窪田勉、栗田佳典、大久保航平、下園力良、三輪敦子、熱田典子、岡島克樹、高橋正紀、佐野光平



<高校生のための国際協力助成プログラム成果報告会 講師>

【講師】林田雅至（大阪大学 CO デザインセンター・教員）熱田典子（(公社)アジア協会アジア友の会）、
山上正道（(特活)AMDA 社会開発機構）、佐藤正隆（リタワークス(株)）

<高校生のためのポスターセッション 審査員>

【審査委員長】坂西卓郎（(公財)PHD 協会）

【審査員】石崎雄一郎（ウータン・森と生活を考える会）、東川貴子（(認活)緑の地球ネットワーク）

【第1次審査員】片田孫朝日（灘中学校・高等学校・教員）、安里佳世子（大阪府教育センター）

【コーディネーター】榛木恵子（(社福)聖和共働福祉会）

運営体制・委員会構成

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online～私たちが描く持続可能な社会の未来図～は、ワンフェスユース運営委員会（*1）、（特活）関西 NGO 協議会（事務局）が主催する事業です。運営委員会をはじめとする主催団体が資金の調達・管理、事業運営を担います。高校生実行委員会（*2）はオンライン企画立案・講師調整、広報計画・クラウドファンディングや当日 WEB 特設会場の立案や当日運営ボランティアの親睦会を担当し、参加者に近い視点から企画運営を担っています。さらに、ユース提言セクション（*3）が提言専門チームとして発足し、ユースアジェンダ策定とシンポジウムの開催をし、新しい風をもたらしました。

*1：ワンフェスユース運営委員会は、高校教員・大学教員・NGO 職員・社会的企業・ユース・関西 NGO 協議会職員で構成。

*2：高校生実行委員会は関西地域の高等学校より計 15 名の高校生で構成。彼らの活動をワンフェスユース OV 会の高校生・大学生がサポート。

*3：関西地域の高等学校に通う 7 名の高校生で構成。

高校生実行委員会

◆イベント運営セクション

大崎蒼依、山本悟土、宇高結衣、梅ヶ枝桜、河南怜花、細原史恵奈、中田柊史、西川千裕

◆プログラム実施セクション

武村桃子、黒田瑞穂、香田拓海、古賀凜、高居柊平、矢田七海、藪野純菜

◆ユース提言セクション

菅礼美、樋口真由、川崎レナ、糸川一騎、松岡美優、マルチタニシカ、藤本絵梨奈

ワンフェスユース OV 会（*4）

池田有里菜、梅原恋子、岡本慧、熊亮太郎、下園力良、濱田裕也、林徹郎、横田藍子、米川愛



*4：これまでに、ワンフェスユースで高校生実行委員会やボランティアリーダーを経験したことのあるメンバーが、OV (Old Volunteer) としてワンフェスユース OV 会を組織

ワンフェスユース OV 会の運営サポート及び当日ボランティアコーディネート（公財）大阪 YMCA、（一社）ソーシャルギルドがサポート。

運営委員会

【日程】①7/9 ②8/25 ③9/24 ④10/28 ⑤12/1 ⑥12/19 ⑦2/9

【運営委員長】栗田佳典（（認活）テラ・ルネッサンス）

【副運営委員長】杉浦真理（立命館宇治中学校・高等学校教員）、鈴木千花(JYPS/立命館アジア太平洋大学)

【監事】坂西卓郎（（公財）PHD 協会）、田中めぐみ（京都女子中学校・高等学校教員）

【会長】林田雅至（大阪大学 CO デザインセンター）

【運営委員所属】大阪府教育センター、大阪府立渋谷高等学校、大阪府立北摂つばさ高等学校、大阪府立松原高等学校、大阪 YMCA 国際専門学校、京都女子中学校・高等学校、兵庫県立兵庫高等学校、神戸龍谷中学校高等学校、灘中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館守山中学校・高等学校、大阪大学 CO デザインセンター、（公社）アジア協会アジア友の会、（公財）大阪 YMCA、（認活）テラ・ルネッサンス、（公財）PHD 協会、（一社）ソーシャルギルド、朝日新聞社、リタワークス（株）、ワンフェスユース OV 会、（特活）関西 NGO 協議会



What's One Fes Youth?

ワンフェスユースとは？

ワン・ワールド・フェスティバルfor Youthは、
2014年に高校生を中心とする若い世代とNGO、CSO（市民社会組織）がつながり、
グローバルな課題を自分たちの問題としてとらえ、考え、
行動に移すためのフェスティバルとしてはじまりました。
高校生やワンフェスユースのOV（Old Volunteer）が中心となり、
多くの賛同者、協力者とともに、多様なプログラムを展開しながら、
若い世代のネットワークや活動の幅を広げています。



Pre-Event
プレイベント

国際協カスタッフと先生のためのオンライン交流会

※ 事前申し込みが必要です（11月11日受付開始）

12/6日 10:00~12:00

参加する



学校教員とNGOの関係性を深める
事前イベントを開催！



高校生を中心にユース向けのプログラムを実施しているNGOやJICAのスタッフが参加し、スタディツアー、SDGsの探究学習、出張講義などのプログラムを紹介いたします。是非、気軽にご参加ください！

メインセッション

録画配信

リアルタイム配信

10:00-10:35



開会式 | キーノートセッション

開会式では、2030年のSDGs達成を見据えて日本全国や世界の仲間と繋がり、2020年の世界のリアルをお届けします。キーノートセッションでは私たちの描く持続可能な社会の未来図へとどんなものが、ナビゲートします。一緒に考えを深め、今日1日をワクワクと過ごしましょう！

詳細

10:40-12:35



高校生のためのオンラインポスターセッション審査会

第一次審査、NGOとのブラッシュアップ交流会を経て、セミファイナルに選出された11の高校生チームが最終審査に挑みます。ユースが考える国際課題と解決方法、SDGsの達成にむけたアイデアなど、聞きに来てください！

詳細

10:40-13:20



ユネスコ協会SDGsパスポート体験発表会

私達は同パスポートを実施する大阪府下のユネスコスクールです。地域課題の解決を目指して活動しています。今年は、コロナ禍での高校生活についてZOOM交流会を行います。

10:50-12:20



私たちに何ができるのか ～コロナを超えて、明るい明日へ～

コロナ渦の中、ユースがどのような体験をし、どのような思いを持っているのか、そして未来のために何ができるのか。若者ならではの視点で、コロナを乗り越えるきっかけを共有し、明日へつなげていきます！

詳細 ▶

10:50-12:00



みんなで彩る、6色の虹

みなさんは日本においてLGBTQであるとカミングアウトをしている人は左利きの人と同じ割合であることを知っていますか？わがっているようでもわからないLGBTQについてディスカッションを通じて学びましょう！

詳細 ▶



高校生のための国際協力助成プログラム2019成果報告会

2019年度高校生助成プログラムに採択された2つの高校生チームによる活動報告です。審議員からのコメントも含め、来年、申請を検討している高校生・教員もぜひ参考にしてください。

詳細 ▶

13:00-14:10



ユースアクション報告会

高校生たちが学校で実施した国際協力・フィールドスタディ・プロジェクトラーニングでの学習内容とその成果について共有します。

詳細 ▶



ユースからの提言 ～差別・貧困の視点から考える私たちの未来～

今年初めて発足したワンフェスユースユース提言セッションによるシンポジウムです。日本での差別や貧困の問題を取り上げながら、私たちユースが私たち自身の未来のためにアクションを起こす意義を提言します！

詳細 ▶



「地球温暖化を止められるのか？～今後人類に求められること～」

近年気候変動により世界各地で異常気象が起っています。さらに、気候変動に対する意識の変化も世界中で見られています。私たちユースと大人がどのように協力し温暖化問題を止めるのが科学的根拠に基づいて学びましょう！

詳細 ▶

14:40-15:40



閉会式 | ラップアップセッション

ポスターセッション審査発表

ワンフェスユースからの提言

いよいよ、ワンフェスユース2020の締めくくり。ポスターセッション最終審査結果の発表をはじめ、一日の学びをグラフィックレコーディングを用いて意見交換しながら振り返ります。そして、最後にワンフェスユースからの提言を共有・発表します！

詳細 ▶

運営

ワンフェスユースは高校生実行委員会を中心に運営しています。

高校生実行委員会

イベント運営セッション

私たちイベント運営セッションは、ワンフェスユースの当日運営を円滑に進めるための会議を行っています。今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりワンフェスユースのオンライン化に伴って、公式ホームページ特設会場の構成、内容、機能を考えました。是非、特設会場をお楽しみください！また、Zoomの解説動画をつくったり、SNSを用いた事前告知を行っています。さらに、高校生レポーターボランティアを募集しており、当日運営の要としてボランティアコーディネーションを担当しています。

ユース提言セッション

私たちユース提言セッションは、「国際問題などに興味はあるものの関わり方が分からない人が関わりやすくなるように、興味のない人が興味を持てるようにする」ということを目的に活動しています。9月から、自らも様々な世代・専門知識を持った方との関わりを通して学び、リサーチをしています。高校生が「貧困」「差別」について当事者意識を持てる提言書・シンポジウムが出来るよう、頑張ります！

プログラム実施セッション

私たちプログラム実施セッションはワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online～私たちが描く持続可能な社会の未来図～をコンセプトに、企画構成を考え、国際協力やSDGsに携わる講師との企画調整を行いました。また、「開会式」「キーノートセッション」など、クラフィックレコーディングにより1日をふりかえる「開会式プログラム」ラップアップセッションを実施します。当日企画の要として、最初から最後まで楽しめるワンフェスユースプログラムを提供できるよう頑張っています。

主催

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会
特定非営利活動法人 関西NGO協議会

協力

大阪大学COデザインセンター／（公財）大源YMCA／
（一社）ソーシャルギルド／N E Cネットエスアイ株式会社／
ワンフェスユースOV会／ワン・ワールド・フェスティバル
for Youth 高校生実行委員会

後援

外務省／文部科学省／（独）国際協力機構 関西センター（JICA
関西）／大阪府教育委員会／ESD活動支援センター／近畿地方
ESD活動支援センター／（公財）大阪府国際交流財団／（特活）開
発教育協会（DEAR）／朝日新聞社／関西SDGsプラットフォーム

助成

外務省NGO事業補助金事業
／公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）／独立
行政法人環境再生保全機構
（※ユース提言セッション）
／日蓮宗あんのん基金会

指定寄付

近畿ろうきん・社会貢献預金
（笑顔プラス）

協賛



Contact

お問い合わせ

☎ 06-6377-5144

owf-youth.com

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020事務局
〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 4 階（関西NGO協議会）
✉ youth_expo@kansaingo.net

TOP

作成日：2021.2

特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会／Kansai NGO Council

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30

TEL 06-6377-5144 FAX 06-6377-5148

E-mail: knc@kansaingo.net

URL: <http://www.kansaingo.net>



ワンフェスユース2020 レポート



「私たちが描く持続可能な社会の未来図」とSDGs



なぜ、ユースなの？

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(持続可能な開発目標 SDGs)が 2015 年 9 月、国連において全会一致で採択されました。2030 年、私たちの住む地域、社会、そして世界はどのようになっているほしいと思いますか？ 貧困や差別がない社会、戦争のない世界、環境にやさしい社会、防災減災に取り組むまちづくり、ジェンダーの平等、質の高い教育、そして、誰もが自分らしく幸せに暮らせる社会。私たち若い世代は、地球に暮らす一員として、その未来図を描き、その実現に向けて行動します。

コロナ禍である今だからこそ

2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大を受け世界中の人々が共通の課題の当事者となり、これまでの生活のあり方を見つめ直すと同時に世界との繋がりを意識しました。ワンフェスユースは、ユース主体でオンライン開催を提案し、新たなフェスティバルや、ネットワークづくりを実践できました。持続可能な社会の扉を開くための第一歩となる活動に参加してみませんか？

ワンフェスユース2020 Online のプログラム



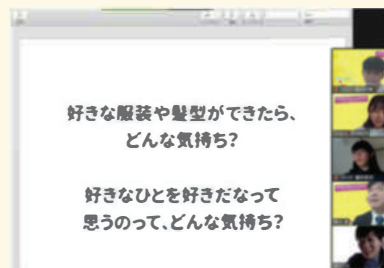
開会式|キーノートセッション

高校生実行委員会が企画した開会式では世界のユースと繋がりコロナ禍を共有し、キーノートセッションではフェスティバルを楽しみ“持続可能な社会の未来図”を描くためのコツをナビゲートしました！



オンラインポスターセッション

ファイナリストに選出された11の高校生チームが、11月のオンラインブラッシュアップ交流会を経て、国際課題の解決と SDGs の達成に向けたアイデアを発表しました。



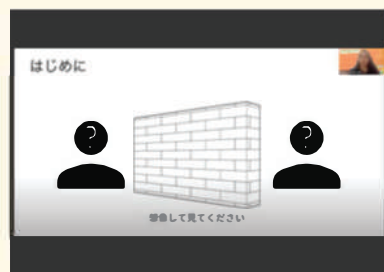
講師によるワークショップ

高校生と NGO、企業が手を取り合い COVID-19 や LGBTQ、気候変動のプログラムを開催しました！また、NGO や高校、企業などの活動が動画配信で紹介されました。



ユースアクション報告会

高校生たちが、スタディツアーや探究学習、プロジェクトラーニングを通して、学びを深め、次の行動に繋げていく課題発見や課題解決方法について共有する学校間の報告・交流会を実施しました。



ユースからの提言

今年発足した「ユース提言セクション」は、“差別・貧困”のユースアジェンダを策定しシンポジウムを開催しました。閉会式では、同世代がユースアクションを起こす意義を提言しました！



閉会式|ラップアップセッション

各プログラムをまとめ、文字やイラストで記録したグラフィックレコードによってフェスティバル当日の振り返りをしました！

ワンフェスユースをつくる高校生たち



ワンフェスユースは、一人の高校生の発意とそれに賛同した高校生たちによって生まれたユースの取り組みです。
2020年度はオンライン開催の可能性を模索しながら活動してきました！

プログラム実施セッション（プロセク）



私たちプログラム実施セッションでは、実際のイベントのプログラムの構成を決めました。今回は開会式、NGO／企業講師プログラム、閉会式の内容をオンライン会議を通して企画してきました。参加者に何を伝えたいのか、私たちに何ができるのかを問い、講師の依頼や調整をし、内容をブラッシュアップ!! 当日は Zoom を活用して複数のプログラムを実施しました。

プロセク・高校生からのメッセージ

プログラム実施セッション メインフォーカル 武村 桃子

高校生実行委員会では例年同様に学びを共有することができるのか、私たちが社会や世界に向けて発信したいことがしっかり伝わるのか模索し続けました。大きな不安と未知なる挑戦への期待感でいっぱいでしたが、当日は驚くほど連帯のとれたワンフェスユースを開催することができたと思います。このイベントを通して学んだことを忘れず、これからもたくさんのことにチャレンジしていきたいです。本当にありがとうございました。

プログラム実施セッション委員：メインフォーカル 武村桃子 黒田瑞穂、香田拓海、古賀凜、高居柊平、矢田七海、藪野絢菜

イベント運営セッション（イベセク）

私たちイベント運営セッションでは、例年通りなら当日会場の運営をサポートしてきましたが今年はオンラインでの開催となり特設会場の Web デザインを行いました。来場者と同じ、高校生がアイデアを出し合い、制作に携わったことで機能性や見やすさの改善を意識しました。また広報にも力を注ぎクラウドファンディングやワンフェスユースの活動を随時更新していきました。



イベセク・高校生からのメッセージ

イベント運営セッション 共同代表 大崎 蒼依

初めてのオンライン開催で私たちイベント運営セッションではホームページの Web デザインや Twitter や Instagram などの SNS で広報を行いました。このコロナ禍でもたくさんの方とオンラインで集まり、学ぶことが出来て良かったです。今回のワンフェスユースで得た経験を活かして今後も【今自分にできること】に取り組んでいきたいです。

イベント運営セッション委員：共同代表 大崎蒼依、山本悟士 宇高結衣、梅ヶ枝桜、河南怜花、細原恵奈、中田柊史、西川千裕

ユース提言セッション（アドセク）



私たちユース提言セッションは、日本や世界が抱えている様々な課題の解決のため、同世代である高校生に向けた提言活動を行う専門チームとして集まりました。ワン・ワールド・フェスティバル for Youth の場で、ユースシンポジウムの開催に向けて、2030 年、2050 年を見据え、これからの時代を切り拓くために必要な指針を提案するための提言書を策定し、その内容を発表しました。

アドセク・高校生からのメッセージ

ユース提言セッション 共同代表 樋口 真由

今回の取り組みを通して様々な社会課題に関する自分の知識が増えただけでなく、どのようにしたら自分たちの届けたいメッセージがうまく伝わるかを考え、工夫ができるようになりました。この経験をそのまま終わらせることなく、自分の原動力にしてたくさんアクションを起こしていきたいです。私たちの活動をサポートしてくださった方々本当にありがとうございました。

ユース提言セッション委員：共同代表 菅礼美、樋口真由 川崎レナ、糸川一騎、松岡美優、マルチタニシカ、藤本絵梨奈

ワンフェスユース 2020 開催概要

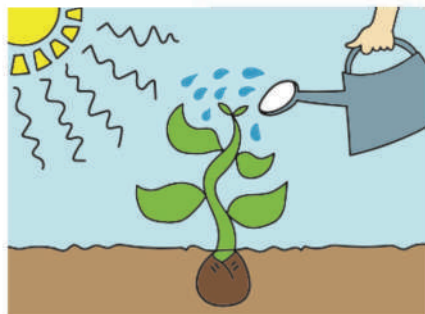
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 online
「わたしたちが描く持続可能な社会の未来図」

開催日 2020年12月20日(日) 10:00~16:00

開催場所 ワンフェス for ユース公式ホームページ内特設会場

当日参加者数

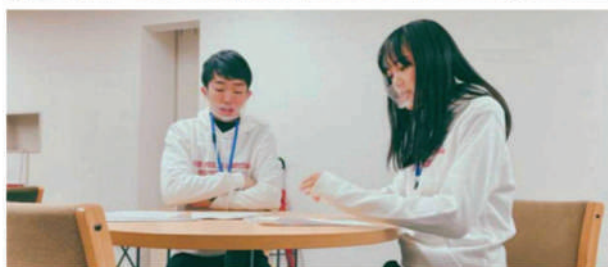
**2020年は高校生を中心に延べ1,200人の参加者を迎え、
2014年からの累計は、延べ31,200人を超えます！**



ワンフェスユースのコンセプト

種や芽はそれ一つでは育つことが難しくても、日の光や水、土壌からの栄養をもらうことで育っていきます。高校生の思いの芽や種も、はじめから完成しているわけではありません。NGO や NPO、ワンフェスユース運営委員、OV 会、協力団体や企業の応援、そして市民のみなさんからのクラウドファンディングをはじめとする、共感・賛同の気持ちを栄養とし、大きく育っていきます。栄養をもらった高校生実行委員たちの思いの種や芽が、ワンフェスユースのコンセプトをつくり、企画となって、実現されて、育っていきます。

※ワンフェスユース運営委員は関西の NGO と高校・大学の教員・社会的企業・ユースにより構成されています。



- 主催** ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会、(特活)関西NGO協議会
- 協力** 大阪大学COデザインセンター、(公財)大阪YMCA、(一社)ソーシャルギルド、NECネットエスアイ株式会社
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth OV会、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会
- 後援** 外務省、文部科学省、(独)JICA関西、大阪府教育委員会、ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センター
(公財)大阪府国際交流財団、(特活)開発教育協会(DEAR)、朝日新聞社、関西SDGsプラットフォーム
- 協賛** ジブラルタ生命保険株式会社、リタワークス株式会社、真如苑
日本労働組合総連合会大阪府連合会(連合大阪)、近畿労働金庫
- 助成** 外務省NGO事業補助金事業、公益財団法人カメイ社会教育振興財団(仙台市)
独立行政法人環境再生保全機構(※ユース提言セクション)、日蓮宗あんのん基金助成事業
- 寄付** 近畿ろうきん・社会貢献預金(笑顔プラス)寄付金



2021の募集情報を
チェック!

お問い合わせ先

(特活) 関西NGO協議会 / ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 事務局

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30 4 階

TEL : 06-6377-5144 / FAX : 06-6377-5148 Email : youth_expo@kansaingo.net

[open hour] (火~金) 13:00 - 18:00 ※土・日・月・祝休み

ワンフェスユース2021の開催については、
ウェブサイトをご覧ください!



ワンフェスユース公式サイト
へ直接アクセスできます

関西NGO協議会 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

～発足と活動について～

(特活) 関西NGO協議会 佐野光平

目次

0. 自己紹介と質問
1. 関西NGO協議会について
2. ワン・ワールド・フェスティバル for Youth
～発足と活動について～

自己紹介

- ・名前：佐野光平
- ・所属：関西NGO協議会
- ・担当：国際協力／SDGs啓発普及



- ・これまで&ポリシー：
 - ・「国際NGO論」で世界の不条理を知る。
 - ・大学地域連携の研究／教育／社会実装
 - ・国際協力NGO研修生／カンボジア駐在
 - ・これからを一緒に創る「仲間」の育成
- 例えば...
- 「それ知ってる～」→「やる／行動する」
 「ないない～(文句)」→「ないなら創る」
 「○○してあげる」→「○○だからする」

自己紹介

経歴 佐野光平 京都府 出身
平成元年生まれ 31歳

2014.3 龍谷大学大学院政策学専攻 政策学専攻 修了
 2014.4 NPO法人深草・龍谷町家コミュニティ (龍谷大学)
 2014.4 京都府立大学地域連携センター | 研究員

フリーランス | 地域公共政策士として活動

2017.4 フィリピンへ語学留学 (哲学・宗教・歴史・社会課題)
 2017.9 認定NPO法人テラ・ルネッサンスカンボジア事務所
 2018.6 福知山公立大学北近畿地域連携センター (業務委託)
 2018.10 同 地域実践型教育コーディネーター (業務委託)
 2018.10 同 「地域協働型教育研究会」研究補助員 (業務委託)

2019.8～現在 国際協力NGOにて
 若い世代による日本最大級の国際協力／SDGs／多文化共生
 普及啓発フェスティバルのコーディネートを担当。

今日はココ！！



カンボジア 元地雷原地域の調査



キャリアパスポート欲しい！



質問！

NGOとは？ SDGsとは？



NGOとは？

・NGOとは

= Non-Governmental Organization

世界の課題（開発・環境・人権・平和など）解決のために**非政府**かつ**非営利**の立場で活動する団体

独立している

政府の方針に支配されず
独立して意思決定をし
活動できる

非営利性

利益追求にとらわれず、
課題の解決や使命のために
活動できる

NGOとは？

- ・課題に対して
その**解決**のために動く
市民の集まり

なんとか
しなくちゃ！



- ・目的（ゴール）がある
- ・ゴール＝課題が解決した
状態を目指して
活動を積み重ねる

達成したら
活動完了！



達成のために様々な角度から活動を続ける

SDGsとは

・Sustainable Development Goals

持続可能な

資源, 環境, 気候変動...

このままでは世界が
「つづかない」ので、
「つづけられる」ように

開発

目標

貧困, 飢餓, 教育, 不平等...

世界みんなが
安心して、満足して、
生活できるように

SDGs : 背景

「我々の世界を**変革**する：
持続可能な開発のための2030アジェンダ」

Transforming our world:
the 2030 Agenda for **Sustainable Development**

- ・2015年9月「国連持続可能な開発サミット」で全会一致で可決
- ・**MDGs** と**リオ**の流れを合体させた

開発

MDGS
(ミレニアム開発目標)

貧困・飢餓・教育etc..
途上国の課題解決

両立

環境

リオ地球サミット
「アジェンダ21」
リオ+10、リオ+20の流れ
環境を守る、持続可能性

SDGsとNGO NGOが大切にしていること

※ NGO = 国際協力を行う民間の非営利組織

・行政などの支援が届かない人への支援

- ・アクセスの悪い農村部やスラムなどで生活する貧しい人々
- ・被害を受けやすい女性や子ども、差別を受けている人々

・自分たちの手で生活を変える『人の育成』

- ・共同組合や地域コミュニティづくり
- ・雇用創出や職業訓練、技術指導
- ・その土地で人々が続けられる環境整備（井戸、学校etc...）

SDGsが決まる前から**NGO**の姿勢は変わらない

関西NGO協議会とは

- ・ 関西NGO協議会は…
「ひとつの団体ではできないことを
ネットワークを通じて実現する」組織

関西地域を拠点とする国際協力NGOの拠点となって、

- ・ ネットワーク
- ・ NGO支援
- ・ 啓発活動・開発教育
- ・ 政策提言
- ・ 人財育成
- などを行っている

国際協力の裾野を広げる役割

関西NGO協議会



・ 関西地域のNGOのネットワーク構築・強化、他セクターとの連携、民間・市民のアイデアを活用した国際協力・社会貢献活動の拡充

・ 国際協力・SDGs普及啓発を通して、異業種・異分野が繋がり目的を共有すること。グローバル・ローカルとセクターの壁を越え取り組みを推進。

「一つの分野を専門的にやっている団体だけでこの社会の問題、グローバルな課題を解決することはできない。」

各NGOが、成果だけでなく出来なかったことを評価することで、出来なかったことを出来る人たちが外にいることに気づく。そこから、他分野や、国内と海外が繋がるのしるぎが生まれると思う。それぞれがそれぞれの役割を担っていく、そういう社会ができればいい。」

SDG17は課題解決の「方法」を示す。異業種・異分野が共通の目的を持ち、資源を投入する。ワンフェスユースfor ユースは課題解決のためのパートナーシッププロジェクト。

関西NGO協議会 加盟団体とSDGs



アクセス—共生社会を目指す地球市民の会



・貧困・フェアトレード

- ・ フィリピンの都市スラム、火山被災地、農村部などで貧困をなくすための活動を実施
- ・ 子どもに教育を、女性に仕事のチャンスを提供
→ フェアトレード事業や奨学金プログラムなど



包摂的
参加型

CODE CODE海外災害援助市民センター



・災害援助・復興支援

- ・ 支援の届かない地域で活動
- ・ ネパール震災では地震発生後数日で現地に駆け付け調査
- ・ 緊急支援（テント配布）
- ・ 復興支援（耐震住宅建設の手法を伝え、大工を育てる）



包摂的
参加型

他にも… NGOは様々な課題に取り組んでいます

日本国際飢餓対策機構 (JIFH)



日本キリスト教海外医療協力会 (JOCs)



アジア女性自立プロジェクト



アジア協会アジア友の会



他にも… NGOは様々な課題に取り組んでいます

CODE海外災害援助市民センター

ウータン・森と生活を考える会



テラ・ルネッサンス

関西NGO協議会

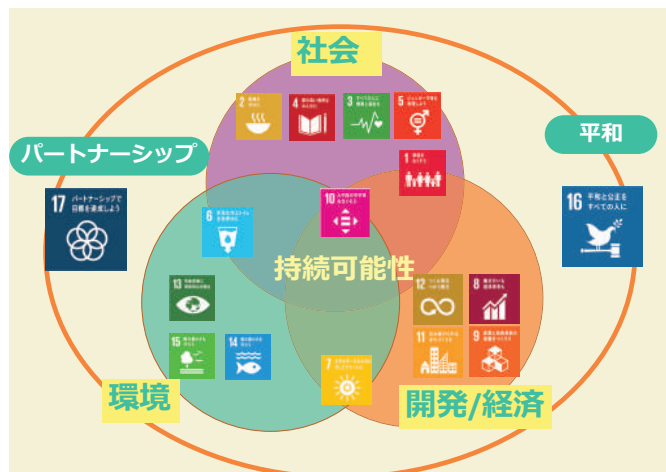


SDGs：ポイント、実施原則

Point

- ・「貧困の根絶“ゼロにする”」 Getting to zero
- ・「誰ひとり取り残さない」 Leaving no one behind

- 包摂的**：「誰ひとり取り残さない」
- 普遍的**：途上国も先進国も達成する必要がある
- 参加型**：すべての利害関係者の参加
特に「弱い立場の人々の意見」を取り入れることが重要
- 説明責任**：施策の内容や結果を常に明らかにする責任
- 統合的**：経済・環境・社会の三分野すべて網羅する



ワン・ワールド・フェスティバル for Youthとは



高校生による高校生の国際協力／SDGsの取り組み

目的

- ・国際課題や社会課題の解決に向けて、自ら問いを立て、考え、行動できる若い世代の育成。
- ・様々な枠を超えて、世界を球体として捉え、2030年以降のフェアで寛容な近未来をつくる種まき。

昨年度実績

- ・参加者：のべ6,000名、1,200名来場
- ・当日ボランティア：200名以上



対象は若い世代、多様な関心層

・やる気あふれる人たち!!

国際協力に関心ある！、イベント運営に関心ある！
プログラム参加が楽しみ！、変化にわくわくしてる！
★昨年や一昨年に参加してまた来た！

・「関心持ちはじめました」という人たち！

国際協力のこと授業で知って、気になって来てみた。とか
何か自分にできることの“きっかけ”を求めて、とか
★「やる気あふれる」層に引き上げたいところ。

・「関心ない訳じゃないけど…」という人たち！

先生に勧められて、友達に誘われて、とりあえず来てみた。
国際協力、大事だとは思うけど、難しそうで、よくわからない。
★最初の一步、大切にしたい層。
一気に変化を起こす可能性を秘めているかも？！

高校生実行委員への期待・役割

・仕掛け人になる

- ・高校生に響くプログラムや仕掛けをつくる
- ・自分たちが「参加しよう」「面白そう」と感じる企画
- ・「視野が広がる・成長につながる」と感じる企画
- ・高校生が国際協力・国際交流とつながる仕掛け

・発信者になる

- ・たくさんの人に参加してもらう
- ・自分が参加しようと思う広報を高校生に伝える手段で
- ・イベント広報以外にも、世界や国際協力分野に関心を持つ人を増やすための発信者に

一人一人にできること

①知る



「世界の子供」など
テーマを決めて調べる
国際ニュースを見る

②伝える



今日の話、勉強した
知識を家族や友達に
伝える、Facebookの
国際協力系記事の
シェアなど

③行動する



募金やモノの寄付、
フェアトレードの買い
物や節電など、自分の
生活を見直してできる
ことからやってみる

私たちが描く持続可能な社会の未来図 2014年より関西のCSO・NGOと教員



国際協力を身近に感じ考える さまざまなプログラム



高校生国際協力活動
助成プログラム



高校生のための
ポスターセッション



高校生のための
ワークショップ・講演



NGO・高校・大学・
企業・国際機関など
によるブース出展



高校生の国際協力・
ボランティア活動報告会



世界を感じる
パフォーマンス



世界の食を体感
カフェ・ワンワールド

NGO・高校・大学・ 企業・国際機関など によるブース出展



高校生のための ワークショップ・講演



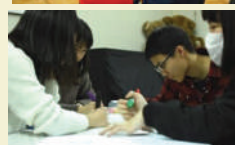
高校生が作る国際協力イベント

企画・運営面においても、中心となる高校生たちが高校教員や
NGO職員等と協力しながら、“高校生目線”で作り上げる。

高校生 実行委員会



ボランティア リーダー



高校生実行委員とボランティアリーダー

ボランティアリーダー

- どうやったら参加者が楽しく過ごせるかな？
- ボランティアも楽しく活動してほしい
- 色々なプログラムに参加してもらうための工夫はどうしよう？

高校生実行委員会

- どんな企画だと高校生にたくさん来てもらえるかな？
- 私たちはこれが聞きたい！これを知りたい！知ってほしい！
- 視野が広がるきっかけになるにはどんな企画や工夫がいるかな？

当日運営の要

企画づくりの要

一緒に創る人、支えてくれる仲間

ボランティアリーダー

高校生実行委員会

会場 大阪YMCA 運営委員会 関西NGO協議会 事務局

当日ボランティア

ソーシャルギルド

講師

審査員

社会人ボランティア

医療ボランティア

デザイナー

高校の先生

NGO

企業

大学・サークル

参加者（高校生・一般）

国際機関

企業・市などの助成金

外務省

協賛企業



2020年度の活動について

2020年度より第3期。

第1期（初動期）、第2期（定着期）を経て発展期を迎える。
新型コロナウイルス感染症拡大によりオンライン開催する。

高校生実行委員会の改組
プログラム実施チーム
イベント運営チーム（旧ボランティアリーダー）
ユース提言チームの発足

Thank You

2030年以降の持続可能な社会の未来図を描くのは
私たち一人ひとり